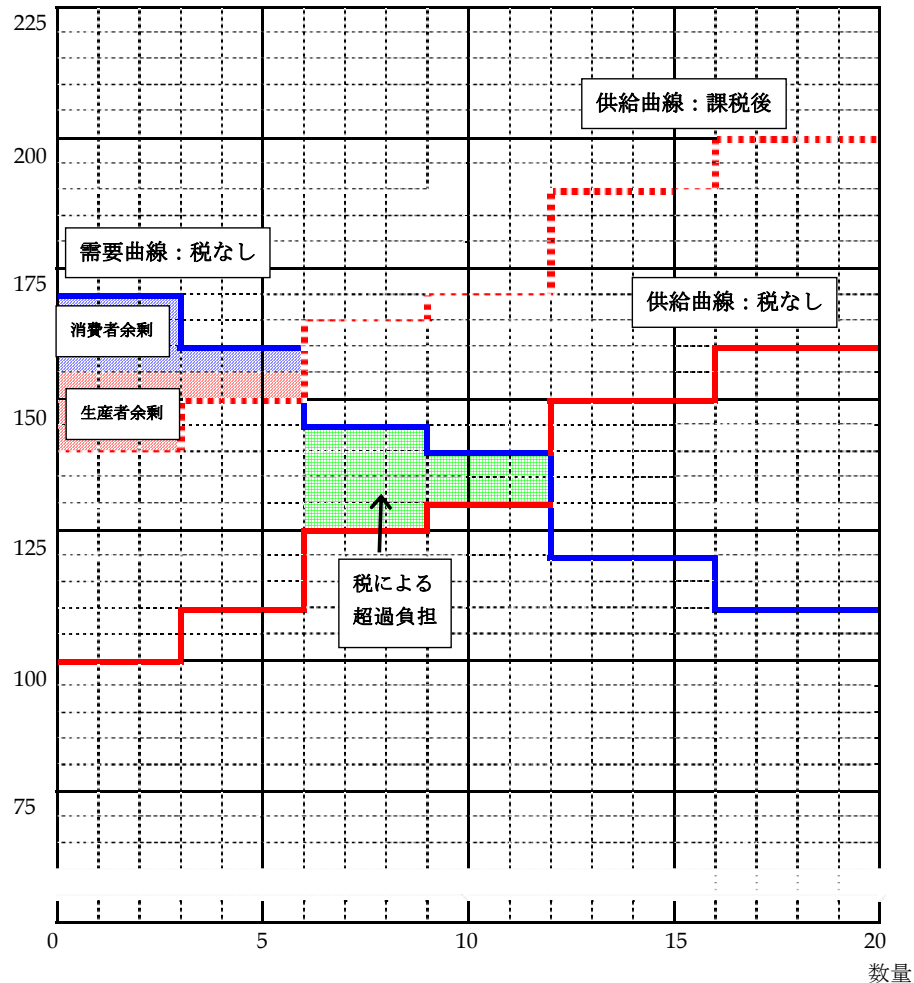


売り手に対する税の影響：セッション1 v s. セッション2

価格



税なし：均衡価格=130-140 均衡数量=12

売り手が税を支払う場合：均衡価格=150-160 均衡数量=6

平均均衡価格=155 で計算した場合：

消費者余剰：買い手の利得の合計=15×3+5×3=60

生産者余剰：売り手の利得の合計=15×3+5×3=60

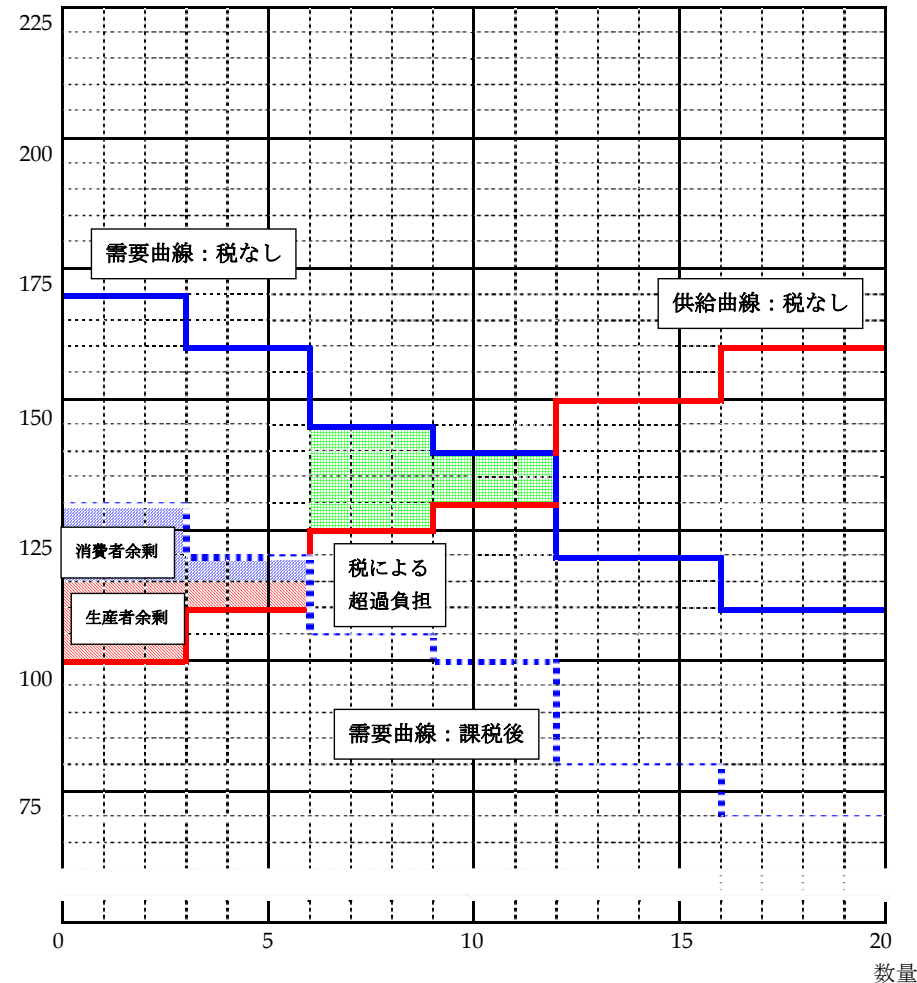
税収=40×6=240

総余剰：消費者余剰+生産者余剰+税収=360

税による超過負担：税金のない時の総余剰-課税後の総余剰=90

買い手に対する税の影響：セッション1 v s. セッション3

価格



税なし：均衡価格=130-140 均衡数量=12

買い手が税を支払う場合：均衡価格=110-120 均衡数量=6

平均均衡価格=115 で計算した場合：

消費者余剰：買い手の利得の合計=15×3+5×3=60

生産者余剰：売り手の利得の合計=15×3+5×3=60

税収=40×6=240

総余剰：消費者余剰+生産者余剰+税収=360

税による超過負担：税金のない時の総余剰-課税後の総余剰=90

実験の目的：セッション2， 3

政府は、ビールと味の似ている「発泡酒」に対する税金を、ビールと同様の水準まで上げることを検討しています。2002 年度現在、350ml のカンで比べると、原料の麦芽の割合が 66.7%以上のビールの税金は約 78 円なのに対して、25%未満の発泡酒は約 37 円です。仮に、税金が原料の麦芽の割合に関係なくなり、発泡酒の税金がビールと同様の水準まで引き上げられるとすると一本あたり約 40 円の増税になります。

2003 年度税制改革の焦点の一つは、この発泡酒の増税です。ビール業界は、「消費者のことを考えていない」、「売れ行きが落ちる」などと増税に一致団結して反対しています。実際、政府による発泡酒の税率引き上げ論議の動きが伝えられただけで、ビール会社の株は軒並み値下がり傾向を示しており、ビール業界にとっては死活問題です。

他方、不況で国の税收が落ち込んでいる状況では増税はやもえない、集めた税金は国民の皆さんに還元されるのだからいいではないかと政府は主張します。ここでは、消費者余剰と生産者余剰の概念を用いて、増税の導入の是非を理論的に吟味するとともに、理論予測を実験で検証します。

競争市場均衡値：理論予測

	セッション1：税金なし	セッション2：売り手が税金を支払うケース	セッション3：買い手が税金を支払うケース
均衡価格 (平均値)	135	155	115
売り手価格 (均衡価格－税)	135	115	115
買い手価格 (均衡価格＋税)	135	155	155
取引数	12	6	6
消費者余剰	225	60	60
生産者余剰	225	60	60
徴収された税金の総額	0	240	240
総余剰と税金の合計	450	360	360

物品税の影響

問1：売り手にとっては自分が税を支払うケース（セッション2）の方が、買い手が税を支払うケース（セッション3）より不利ではないか。同様に、買い手にとっては自分が税を支払うケース（セッション3）の方が、売り手が税を支払うケース（セッション2）より不利ではないか。

答え：不利ではない。売り手と買い手両者に関して、税引き後の均衡価格や利得に関して違いはない。

税が売り手から徴収されようと買い手から徴収されようと、税の実質的な効果の違いはない。
 均衡価格は異なるが、売り手が受け取る価格（＝均衡価格－税）、買い手が支払う価格（＝

均衡価格＋税）、取引数、消費者余剰、生産者余剰、徴収された税金の総額、総余剰と税金の合計は同じである。

問2：政府が物品税を徴収する場合、売り手が受け取る価格は減少し、買い手が受け取る価格は増加するので、売り手の総利得（生産者余剰）と買い手の総利得（消費者余剰）は減少する。他方、政府は収入を得て、その収入は、買い手と売り手にとって有用な財・サービスの購入に使うことができる。では、政府の徴収する税金の総額は、税金の導入による売り手と買い手の総利得の減少額よりも大きいか、小さいか、あるいは等しいかのいずれであろうか？

答え：小さい。このことは、需要曲線が右下がりであかつ供給曲線が右上がりならば必ず成立する。理由は、税がない場合には存在した売り手と買い手両者にとって有益な取引が、税が導入された場合に失われてしまうから。

税が徴収されない場合の消費者余剰と生産者余剰と合計額は、税が徴収された場合の消費者余剰、生産者余剰と税の合計額よりも大きい。これらの合計額の差は「税の超過負担」と呼ばれる。

「厚生経済学の第一命題」：競争市場均衡価格で取引をするならば、総余剰が最大になる。つまり、競争市場は効率的である。

本日の実験結果

	セッション1：税金なし		セッション2：売り手が税金を支払う場合		セッション3：買い手が税金を支払う場合	
	理論予測	実験結果 回目	理論予測	実験結果 回目	理論予測	実験結果 回目
平均価格	135		155		115	
売り手価格 (平均価格－税)	135		115		115	
買い手価格 (平均価格＋税)	135		155		155	
取引数	12		6		6	
消費者余剰	225		60		60	
生産者余剰	225		60		60	
徴収された税金の総額	0		240		240	
総余剰と税金の合計	450		360		360	
税による超過負担	0		90		90	